

## 2. 代表的な活動事例

### 2-1 代表的な活動の事例 — 社会貢献活動推進月間中央行事における発表事例 —

各都道府県建設業協会や支部、会員企業は、災害発生時の応急復旧活動をはじめ、地域活性化の取り組みや、河川・道路の清掃活動等様々な社会貢献活動に取り組んでいます。それぞれの取り組みがSDGsの課題解決に沿った取り組みでもあります。

ここでは令和6年度 建設業社会貢献活動推進月間中央行事で顕彰した事例のうち、代表的な事例として発表いただいた、5つの活動事例を紹介します。

番号	県名	協会・企業名	活動内容
1	石川県	一般社団法人 石川県建設業協会	令和6年能登半島地震における災害復旧支援活動
2	山形県	山形県建設業協会 米沢支部 青年部	「婚活支援事業の取り組み」について
3	埼玉県	古郡建設 株式会社	官民連携で楽しくSDGsプロセスに参加できる「Plogging」(プロギング)
4	山形県	山形県建設業協会 最上支部	動画【DOBOKUのススメ】の制作について
5	愛知県	ヤマダインフラテクノス 株式会社	ウシワカ・プロジェクト活動紹介

### 災害復旧・防疫活動

#### 発表事例

#### 1

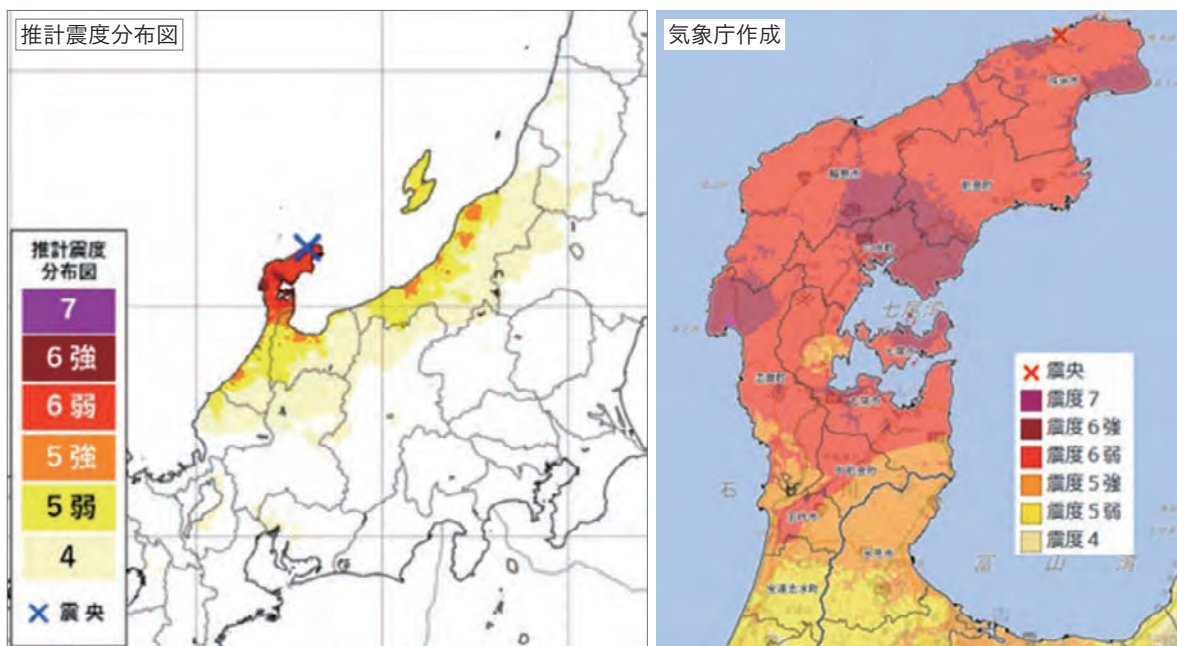
#### 石川県

#### 令和6年能登半島地震における災害復旧支援活動（一般社団法人 石川県建設業協会）

#### 1. 令和6年能登半島地震の概要

地震は令和6年元日の16時10分に発生しました。地震の規模はマグニチュード7.6（阪神淡路大震災、熊本地震のM7.3を上回る規模）、石川県内の最大震度は輪島市、志賀町で震度7でした。能登半島で震度6以上を観測したエリアは県土の約4割にも達しました。

防災直後に石川県加賀、能登に対して津波警報が発令され、その10分後には石川県能登において大津波警報に切り替えられたことから、多くの住民が一斉に高台へ避難をしました。



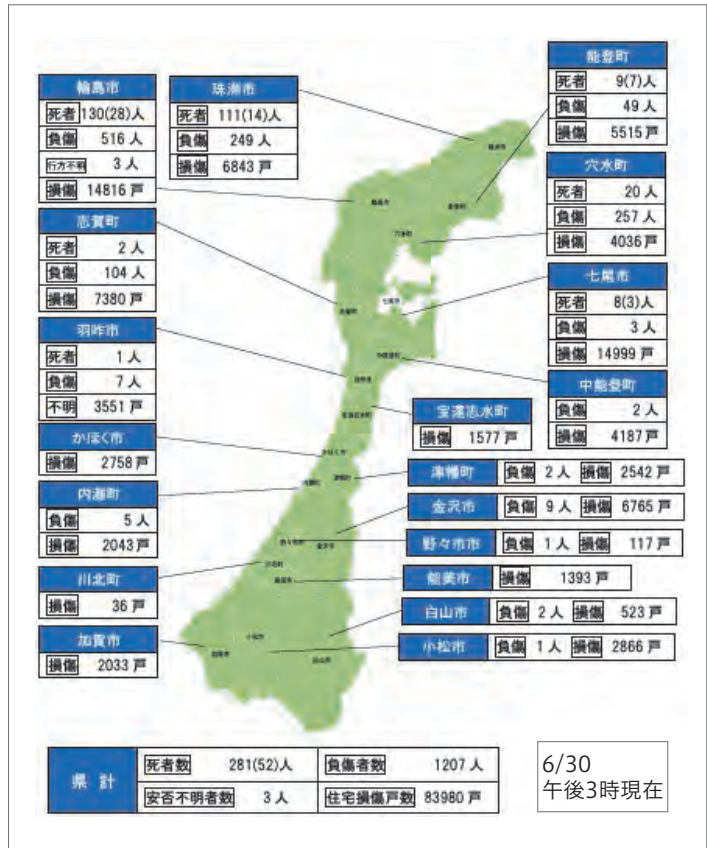
## 2. 令和6年能登半島地震の被害の概要

### (1) 能登半島の特徴（地理的・地質的）

能登半島の特徴は、三方を海に囲まれた半島地形であり、根元の細いボトルネック部分は約10数kmで、金沢と能登をつなぐ幹線道路が3本しかなく制約されていること、日本有数の地滑り地帯であり、地滑り後の平地を利用して耕作が始まり集落が点在するようになって、日本の原風景ともいわれる「能登の里山里海景観」ができてきたことが挙げられます。

### (2) 複合災害の発生

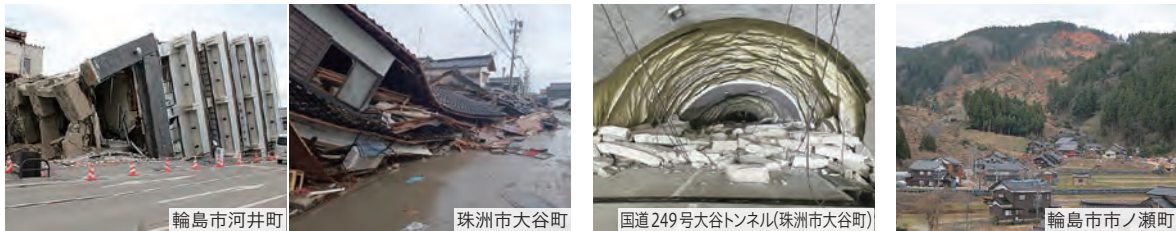
能登半島地震では、①建物倒壊、②道路寸断（トンネル崩落）、③土砂崩れ、④液状化、⑤大規模火災、⑥津波、⑦海底隆起という複合災害が発生しました。6月30日時点で死者数は281人（災害関連死52人）、住宅損傷戸数は約8万戸を超え、発災直後は、停電は最大約4万戸、断水は最大約11万戸を超えるなど、住民生活に非常に大きな影響を与えた県政史上未曾有の大災害となりました。



地震による市町別死傷者数、住宅損傷戸数



道路寸断



建物倒壊

トンネル崩落

土砂崩れ



液状化

大規模火災

津波

海底隆起

### 3. 災害応援協定に基づく災害応援活動

石川県建設業協会では発災の翌日2日に協会内に能登半島地震災害対策本部を設置、同日のうちに国、石川県から要請を受け道路啓開に出動しました。4日には緊急支援物資の運搬、6日からは道路啓開に必要な砕石の運搬を行いました。発災直後は、最大42路線87箇所で行き止まりが発生しており、半島の大動脈「のと里山海道」も大きく損壊し、辛うじて通行できる国道249号を北上して道路啓開作業を進めました。

崩土を除去し、道路の段差を解消し地割れを埋め、路肩が大きく損壊した路線も多くあり砕石を補充して幅員を確保する必要もありました。山地部では多くの倒木を除去しながら緊急工事を進め、電線管理者と連携を取り支障電柱を移設するなど長時間を要する作業となりました。

1月冬期の発災であり除雪作業をしながら安全を確認し道路啓開作業を進めました。

また、奥能登への砕石運搬は困難を極めました。金沢から半島の先端部まで約150km。被災により半島の動脈「のと里山海道」が大きく損壊し、金沢から能登へは国道249号の1車線しかない状況の中、早朝に出発したダンプトラックが深夜になってやっと戻れるほどの大渋滞が発生していました。こうした状況を打開するため、「のと里山海道」の徳田大津IC脇に1次集積場を確保し、1次運搬と2次運搬を分け運搬時間の短縮を図ることとしました。これにより採石場から1次集積場まで2往復、そこから能登地域の9か所の集積場まで2~3往復が可能となり、ようやく現地に安定して砕石を送り込むことができました。3月末までに約3万2千m<sup>3</sup>の砕石（ダンプトラック約6千台）を被災地に運搬しました。



石川県建設業協会の取り組み(砕石運搬・物資運搬)

### 4. 奮闘する地元建設業

被災地である能登地域の建設業者は自らが被災者でありながら道路啓開等の緊急復旧工事に従事する一方、比較的震災被害の少なかった金沢以南の4地区協会（金沢、白山野々市、小松能美、加賀）に出動要請を行い、ローテーションを組んで日最大30班（1班が3~4名）が、能登地域の県道、市町道、河川護岸の補修などの緊急復旧工事に従事しました。

停電・断水が続いており、会員企業は車中泊・自炊をしながら現地作業に携わるなど、オール石川の総力戦で能登地域の復旧にあたりました。

発災から約3か月が経過した4月19日に道路啓開や被災した護岸補修などの緊急復旧工事を概ね完了することができました。現在も、被害が甚大な路線には会員企業が道路啓開に向けた作業を続けています。6月末までに金沢・加賀地域の会員企業から緊急復旧工事に従事した人は、延べ約7千人を超えています。

\* \* \*

**【被災地の建設業者の活動例】**

- ✓ 自宅が住めなくなり、避難所から日々現場に通う。
- ✓ 通常は道路啓開に従事、雪が降り除雪車が稼働する際には除雪車のオペレーターとして従事。

**【金沢・加賀等の建設業者の活動例】**

- ✓ 2泊3日でローテーションしながら現地作業。
- ✓ 現地で車中泊・自炊をしながら現地作業時間を最大化する工夫。
- ✓ 現地に入れた重機を引き継ぎながら工事を継続。

**5. 道路の緊急復旧の状況**

1月2日から幹線道路の緊急復旧に着手し、地元各建設業協会は、(一社)日本建設業連合会、自衛隊の応援も受け、24時間体制で道路啓開作業等を進めてきました。

主要な幹線道路は概ね復旧していますが、半島の外浦側の国道249号、県道輪島浦上線などは、大規模な土砂崩れにより通行止めが続いています。

そのような中、7月17日には、「のと里山海道」及び「能越自動車道」の徳田大津IC～のと里山空港IC間(約33km)も対面通行ができるようになりました。順次、通行止めの解除を目指して鋭意工事が進められています。

能登半島地震は非常災害に指定され、直轄権限代行により道路、河川・海岸等の復旧工事が進められており、今後、石川県、被災市町でも復旧工事が急ピッチで進められることとなります。

そのため、建設産業が能登半島地震からの復興の原動力となり、復旧・復興事業に取り組んでいかなければならないと考えています。

県建設業協会としても、インフラの復旧・復興を通じて能登地域の創造的復興の実現に取り組んでまいります。

**がんばろう能登！ がんばろう石川！**



### はじめに

山形県建設業協会 米沢支部では、山形県東南置賜地域の建設業に従事する独身技術者に対して、将来にわたって支えあえるパートナーと巡り会える場を創出し、安定した社会生活を送る一助となることによって、魅力ある産業の発展をめざし、さらには地域の重要課題である人口減少化社会の解決の糸口になることで社会に貢献することを目的として、『逢con Party』と銘打って婚活事業を平成29年度、平成30年度、令和元年度と3年連続で実施いたしました。また、当時は全国でも建設業に特化した婚活パーティは稀で、東北では初の試みでした。



### 事業実施に至るまでの取り組みについて

平成29年に青年部で実行委員会を立ち上げ、会議を重ねて企画を練り上げました。初めての試みであったため、開催場所や日時、参加人数の設定など手探りでありましたが、実行委員会での打ち合わせ回数を多く重ね、実際に開かれている婚活パーティ等にも参加し様々なヒントをいただきながら事業を構築いたしました。また、「米沢市出逢いの機会づくり応援委員会」の後援と補助金を活用し情報の拡散をしていただきました。さらには、事業実施にあたり、ポスター・チラシをプロのデザイナーに依頼し、会員企業や官公庁、協賛店などにポスター・チラシを掲示して広報を行いました。また、パーティ当日は、カップル不成立だったとしても気になった相手を誘えるよう男女一緒にあれば使える2次会のお食事券の抽選会を実施することを計画しました。また、会場をバルーンアートで装飾し雰囲気ができるような工夫を行いました。地域の様々な飲食店様や施設様に協賛いただき、パーティ後の2次会の場所の提供や成立したカップルへの特別サービスの提供などで力を貸していただきました。

### 事業概要について

平成29年度（事業初年度）の事業概要といたしましては、対象は20～45歳までの独身の男女各25名に設定しました。男性は米沢支部管内の建設業に従事する方。女性は業種・居住地問わず。場所は、市内ホテルにおいて2部形式で実施。第1部では自己紹介をメインに参加者同士の交流を促し、第2部では立食パーティ形式でフリートーク、合間にレクリエーションを実施してさらなる交流を深めてもらいカップルの成立をめざしました。当初から不安であった参加者の募集については、想定より多くの応募があり、抽選を行い参加者の決定をさせていただきました。初年度の結果といたしましては、4組のカップルが誕生しました。また、初年度の反省点としては、男性が積極的に交流をすることができず終始盛り上がり欠けた点や、第1部の自己紹介タイムの時間が短く参加者全員の自己紹介ができなかった点などが挙げられました。

\* \* \*

平成30年度（事業2回目）の事業概要といたしましては、前年度の反省点を活かしつつ、男性参加者のパーティでの立ち振る舞いや会話のコツなどを教えてもらう「男磨き塾」というセミナーをパーティ直前に開催し、男性参加者に積極的な交流をしていただくような取り組みを新たに行いました。また、

第1部の自己紹介タイムの組み合わせタイムスケジュールを事前に綿密に設定し、参加者全員と自己紹介ができるような工夫を行いました。事業2回目の結果といたしましては、8組のカップルが誕生し、様々な工夫が実を結んだ結果となりました。事業2回目の反省点としては、25人对25人という人数設定が多いと感じる参加者が男女共にいらっしやったことが挙がりました。

\* \* \*

令和元年度（事業3回目）の事業概要といたしましては、前年度より参加者数を男女15人对15人と少なく設定し事業を開催しました。その他は前年度と同じ形式でしたが、参加者数を絞ったため運営面で余裕のある設えを行うことができ、それが功を奏し、結果6組のカップルが成立し、カップル成立率の向上を図ることができました。

## コロナ禍を経ての活動について

令和2年度以降については、新型コロナウイルス拡大防止のため3年間事業が実施できませんでした。この3年の間に、多人数のパーティ形式から婚活アプリを活用したものがトレンドとなり、従前の方法ではカップルになった後のフォローが難しく、なかなか成婚までつながりにくい状況が想定されたため、より効率よく成婚につながるような婚活事業を検討いたしました。その結果、以前の婚活パーティ事業で様々なアドバイスをいただいた、結婚相談所ピュアナブライズ代表カウンセラーによる結婚相談所への入会説明会を実施するに至りました。新たな事業の概要といたしましては、会員企業の従業員様が対象（男女問わず）、結婚相談所の初期費用の一部を青年部で助成。実施日は、希望者が参加しやすいような日時を設定し、オーナーに説明会へ対象者が参加しやすい環境づくりの配慮をお願いいたしました。説明会への参加者は男女合わせて10名で、そのうち3名へ初期費用の一部を助成いたしました。現在、成婚まで発展しそうな情報もあり、少人数の参加で成果をあげることができ、有意義な事業であったと考えられます。

\* \* \*

これからも結婚に向けてのきっかけづくりはとても重要なので、建設業界のみならず地域社会全体の発展に貢献できるよう手法を変えながら今後も継続して事業を実施していきたいと考えております。



## 官民連携で楽しくSDGs プロセスに参加できる「Plogging」（プロギング） （古郡建設 株式会社）

### 1. はじめに

古郡建設は、新一万円札の肖像となった渋沢栄一翁の出身地である、埼玉県深谷市にある建設会社で、令和3年1月よりSDGsに本格的に取り組むことをキックオフし、様々な活動を行っています。今回はその中から、「令和6年度 建設業社会貢献活動推進月間中央行事」において、社会貢献・SDGs功労者表彰を拝受しましたPlogging（プロギング）の活動について紹介します。

### 2. プロギングについて

運動やSDGsのプロセスに楽しく参加できる仕組みづくりとしてプロギングイベントを令和3年より年3回実施しています。

プロギングとは平成28年よりスウェーデンから始まり、ゴミ拾いとジョギングをかけたエクササイズで、スウェーデン語の「拾う」という意味の“Plocka Upp（プロッカアップ）”と「ジョギング」「Jogging（ヨギング）」の2つの言葉を組み合わせた造語です。ゴミを拾う時にしゃがむことにより、通常のジョギングの1.2倍のフィットネス効果があると言われており、街のゴミが減り、走って健康、笑顔で交流しながら環境問題を解決に導くSDGsな一石三鳥の活動です。

また弊社のイベントでは、参加者の運動強度に合わせたコースを3種類用意しています。「ウォーキングコース3km」と、ゆっくり走り時には歩く「ゆるジョグコース4km」と、しっかりと走る「がちジョグコース6km」で、子どもから高齢者まで気軽に参加できるようにしています。

### 3. プロギング活動の広がり

弊社のプロギングの活動はもともと社内レクリエーションの一環でスタートしましたが、活動を自社のホームページやSNSで発信すること



ジョギング+ゴミ拾い=プロギング



プロギング最大の目的は「参加者の笑顔」



子どもから高齢者まで参加

で、多くの方に共感をいただき、メディア掲載にも繋がりました。その結果、令和4年2月の開催時には埼玉県環境部水環境課が視察参加となり、それ以降は同課の推進する「SAITAMA/リバーサポーターズプロジェクト」の公式イベントとして開催し、現在では参加者が100名を超えるまでになっています。また、埼玉県以外には、深谷市の協働推進イベントでプロギング体験会を共催で実施、プロギングを全国に広める目的で設立された一般社団法人プロギングジャパンとは、ふかや花園プレミアム・アウトレットのある、ふかや花園駅前でプロギングイベントを共催、他企業のプロギングイベントをサポートと、更なる広がりを見せています。

#### 4. まとめ

これまでの官民連携で継続した活動が評価され、令和5年2月に埼玉県の「彩の国環境大賞 優秀賞」と「リバサポアワード」、令和6年3月にはスポーツ庁の「Sport in Lifeアワード 2023賞」を拝受しました。これからもこの活動を継続させ、深谷市から埼玉県、全国へと同じ志を持った人とともにパートナーシップ精神でSDGsの「現代人に出されている世界共通の宿題」を解決すべく活動していきます。



埼玉県のリバーサポーターズ公式イベントとして発展



イベント風景



官民連携のイベントは参加者 100名超え!





### はじめに

山形県建設業協会 最上支部のある山形県最上地域は、山形県北東の内陸部で、宮城県との県境に位置しており、8市町村で構成されています。

夏は高温多湿で、冬は最上川に沿って吹く日本海からの季節風の影響で雪が多く、豪雪地帯として知られています。

最上支部では、青年部員が若い人たちに建設業の魅力を伝える活動に力を注いでおり、最上郡内中学校を対象に年間10回ほど職業体験会を行ったり、高校生との意見交換会、小学生対象の仕事体験などを毎年行っています。

### 動画制作の動機

建設業の「今」を表現した動画【DOBOKUのススメ】を制作しました。

建設業の魅力発信の活動を続けていく中で、休みが少ない労働環境や、3Kといった昔の建設業のイメージが根強く残っていることが課題だと感じています。

そんな建設業へのイメージを変革し、子どもを送り出す親世代など幅広い層に届いて欲しい、特に未来ある青年たちに届いて欲しいと考えています。

### 制作の様子

主演は「ミッチーチェン」。山形弁のタレント・ラッパー・歌手として活動し、地元民放局やテレビCMに多数出演する、山形県で誰もが知る人気タレントです。

制作期間は令和3年9月1日の打合せから始まり、動画配信が令和5年10月26日と丸2年がかりで、コロナ禍であったため、オンラインでのミーティングを何度も重ねました。

建設従事者がつくり、発信したのでは一般の方に響かないということで、作詞・作曲ともミッチーチェンさんに依頼しました。

何を歌詞に反映させるか。キーワードは「面白おかしく」。昔と今の対比のネタ集めから始まり広く情報収集し、青年部員がそれぞれの視点で先輩などにも聞きながらネタ集めを行いました。

それをもとにミッチーチェンさんが歌詞を作成。一般の方の目線を大事にして歌詞に詰めていき、打合せを重ね、歌詞が完成するまで1年がかかりました。

そしてレコーディングを行ったあと、歌詞に合わせての撮影を行いました。

出演はミッチーチェンさんと我々青年部員です。

第1回目の撮影が令和4年11月。夏場のシーンが必要とのことで令和5年8月に第2回目の撮影を行いました。

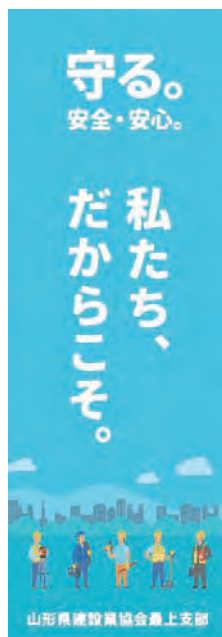
配信日については、一番届けたい【学生】に向けたという思いから、地元の山形県立新庄神室産業高校の生徒さんとの意見交換会の開催日に合わせました。

当日はミッチーチェンさんがドラマの撮影が終わり次第、サプライズで駆け付ける予定でしたが、撮影が長引き実現はしませんでした。

2年もの時間を費やして制作した動画ですが、現在20,000回再生に届きそうなほど多くの皆様に触れていただき、ありがたく思います。

沢山の方に、見ていただきたい作品となりました。

山形訛りの歌詞をクリアファイルに載せて、各所にお配りしPRしております。ご覧になりながら山形弁も楽しんでいただければと思います。



## おわりに

『令和6年度 建設業社会貢献活動功労者表彰』をいただきまして、最上支部そして青年部一同、大変嬉しく御礼申し上げます。また事例発表の機会もいただき、皆様にご披露させていただくことを楽しみに準備を進めておりました。

しかしながら、7月25日、尋常ではない豪雨で一変しました。表彰式出席は急遽断念し災害に備えました。6時間雨量200ミリという考えられない現実が待っていました。さらに24時間雨量400ミリ。加減のない異常気象です。道が塞がれば何の支援もできない、始められないこと。今回の豪雨災害であらためて痛感しました。

災害協定を結び全会員企業が役割を持つ。この体制のもと常日頃から備え即対応する。建設業の使命である【地域の安全・安心を守る。】ジモトを知り尽くす私たちだからこそ、の想いで行動する。全国の建設業協会の皆様も同様かと思えます。

これからも地域のお役に立てるよう、緑の下の力持ちでありたいと思います。

そのためにも若い人の力が必要です。この受賞を励みに、一層、建設業の魅力発信を行っていききたいと思います。



**DOBOKUのススメ**  
作詞：ミッチーチェン  
作曲：トン

今のDOBOKU 前ど違う  
教えてけっから 聞いてどげ  
今のDOBOKU 前ど違う  
稼ぐだいなら DOBOKU イエ

今のDOBOKU 前ど違う  
教えてけっから 聞いてどげ  
今のDOBOKU 前ど違う  
稼ぐだいなら DOBOKU イエ

地図さ 未来刻め DOBOKU  
(地図さ残る仕事)  
夢ば乗せて走れ YUNBO

ハイヨー 調子はなんだ？  
まずはオレ様の番だ  
幸せの黄色いゴアテックス着て  
一服 休憩つかすべい

まずゆっくり覚えてけらっしゃい  
見て盗め！あて言ねよ  
デジタルIT導入で  
監督女子増えてっぞ

ペットボトル凍らせて  
日陰で飲む 夏場の現場  
テント設営 冷水機  
健康守って行くがらな  
週末も休めっぞお  
子育て安心建設業

嘘んねず 余裕もって  
突貫工事に SAY GOOD BYE~  
(かっこいいんねがい)

(セリフ)  
あのよ  
作業中に役所の人くっど、なれ  
車運転してで バトカーと並んだ時  
みだいに現場ちえっとピリつくがら、  
最初から手振がねでけるな。

ほしてせっかく仮設トイレ設けてんさ  
立シオンだけはすねでケロ まず  
流星にほいづはごじゃがれっからな。  
先輩 あいづ さっきからつたい麦茶ばり  
ガブ飲みしてんのよす。  
あれ逆に喉乾くがらっす。  
本当ゆてやってけるーっす。  
すると先輩はなだめるようにこう言います。

今のDOBOKU 前ど違う  
教えてけっから 聞いてどげ  
今のDOBOKU 前ど違う  
稼ぐだいなら DOBOKU イエ

今のDOBOKU 前ど違う  
教えてけっから 聞いてどげ  
今のDOBOKU 前ど違う  
稼ぐだいなら DOBOKU イエ

地図さ 未来刻め DOBOKU  
夢ば乗せて走れ YUNBO

仕事は屋根の塗装バンキング  
いやバンキングは板金組合  
ここ建設業協会 (そうかい)

何か飲むがい？タバコ吸うがい？  
休憩まで待て 我慢すっペー  
俺の指図は俺がする  
そう心に潜む善と悪

ポロシャツの襟立てて  
豊かな暮らしを建てて  
俺らDOBOKUのRUNDMC  
仕事はちゃんと継いでるし

メットは派手模様 稼げ小僧  
スマホばかり気にする (いじくる)

MCGATA YO!  
くらす必殺 サービス残業  
俺はあくまで定時で直行！

帰宅だす

指揮を取れ咲き誇れ  
建設こまちの時代が到来  
汗まみれ 男くさい  
DOBOKU達の時代は崩壊  
指揮を取れ咲き誇れ  
建設こまちの時代が到来  
舵を取れ なれほれ  
山形DOBOKUのススメ

今日の現場どごだ？ SOGODA!  
空気美味いどごだ NDANA!  
住めば都なんだ KOGOWA!  
雨だ今日はやめだ DODANA!

**山形県建設業協会最上支部**



(ヤマダインフラテクノス 株式会社)

## はじめに

みなさまの普段の生活において、インフラが普通に利用できることは「あたりまえ」だと思われているのではないのでしょうか。これらの「あたりまえ」は、様々な立場で情熱を燃やし取り組む技能者たちの手によって支えられているのです。

私たちは「ウシワカ・プロジェクト」を立ち上げ、橋を題材とし、橋の保全のため最前線で働く技能者「ウシワカ」にスポッ



牛若 ～日本のインフラを守る技能者たちの挑戦～

トを当てた2分間のミニ番組を制作し、橋梁保全の重要性ややりがい等を広く発信してきました。「ウシワカ」とは、橋の上で縦横無尽に活躍する技能者の姿を牛若丸に見立てて命名しています。

我が国の抱える大きな問題「少子高齢化の波」は、私たち建設業界にも大きく押し寄せています。私たちは、ウシワカ・プロジェクトを通じて、一人でも多くの方に建設行政に対する理解・協力を得るとともに、インフラ保全の重要性、やりがい等若年層へ広くアピールすることで建設業界の持続的発展(SDGs)につながると考えています。

## テレビ番組「牛若」のスタート

令和3年4月、記念すべき牛若第一章がスタートしました。初回の第1話放送には、名古屋大学名誉教授である山田健太郎先生にご出演いただき、「橋の歴史」と題して、日本の橋の歴史と損傷の現状を説明いただいています。以降は、橋梁定期点検、足場、塗料開発、剥落防止、補修設計、耐震補強、機械メンテナンス、産学協同など様々な分野で活躍するウシワカたちに出演いただき、仕事へのやりがいや目標、夢などを熱く語っていただいています。放送局は東海地方を拠点とする1局のみで、後にオフィシャルサイトを通じて全国での視聴を可能とするという形態をとっています。放送開始に合わせて、マスコミにアピールし、また、社会的信頼度を上げるために多くの建設業関連団体様からご後援をいただくべく奔走もしました。

そんな中、国土交通省中国道路メンテナンスセンターの方から電話をいただきました。「職員研修の冒頭に是非この動画を流ささせていただき、研修生のモチベーションを上げたい」といった内容でした。放送エリア外の方からの思わぬ反響に大変感激したことを今でも忘れません。その後、中国道路メンテナンスセンター様のホームページには牛若番組の紹介をいただいています。ほかにも、字幕を付けて留学生に紹介したいなどといった予想以上の反響が寄せられました。



牛若第一章第1話「橋の歴史」より

## 継続は力なり

しかしながら、こういった活動は継続してこそ意義があります。大きな災害ですら月日が経てば風化し忘れ去られてしまう世の中において、私たちは、灯りはじめた「ウシワカ」の火を絶やすことはできませんでした。続編を期待する声、是非企画に加わりたいといった声が追い風となり、翌令和4年2月には放送局を5局に拡大した第二章を

スタートさせました。放送後のオフィシャルサイトへの展開は継続しています。そして令和5年1月には放送局9局で第三章を、令和6年1月には放送局を12局へと拡大した第四章をスタートさせたのです。当初は数少なかった後援も、現在では14団体様からいただいています。また、高速道路4会社様からのご協力、建設業界以外の7団体様からも協賛をいただいています。

## 番組以外での活動

番組以外にも発信活動を行っています。協賛企業様のイベントにタイアップし、参加された児童や保護者を交えて、橋のフォトコンテストや建設重機の体験、水害に備えた土のう作り体験等を行い、建設業界のアピールを行いました。建設重機につきましては出演企業様からご提供いただいています。また、地域ボランティア活動として、小学校の遊具の塗装塗替え体験も行いました。毎日使用する遊具は、児童にとっての大切なインフラです。これを児童自ら塗装することで、インフラ保全の大切さを学んでもらいました。



ウシワカ  
オフィシャルサイト



インスタグラム

## 未来の日本のために

番組に出演したウシワカたちは、各企業様から期待をもって送り出された人たちです。彼らは番組出演することでまた一段と成長します。それは、テレビ電波を通じて各自の志を伝えることで己に対する責任が生じるからです。そんな彼らをさらに成長させるのもウシワカ・プロジェクトの大きな目的のひとつです。定期的な研修会「牛若道場」を開催し、そこで彼らが交流を深め、励まし合い、競い合います。また、広島大学との合同講義を行い、そこにもウシワカが参加し、学生との意見交換を行います。

こうした体験によりウシワカはさらに大きく成長が進みます。そして成長したウシワカが次世代のウシワカを育て上げます。これこそがウシワカの持続的発展であり、未来の日本を支える力となると私は考えています。

現在、第一章から第四章までの全36話がオフィシャルサイトで視聴可能となっています。ウシワカたちの誇り高き挑戦を是非ともご覧ください（令和7年1月より第五章放送中）。



協賛企業様とのコラボイベント



小学校での塗装塗替え体験



牛若道場



広島大学との合同講義